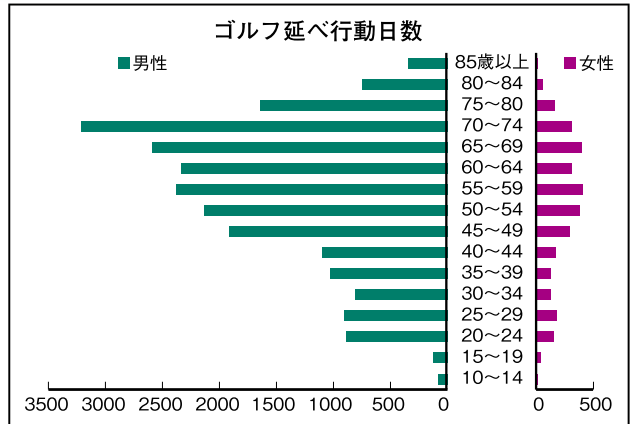
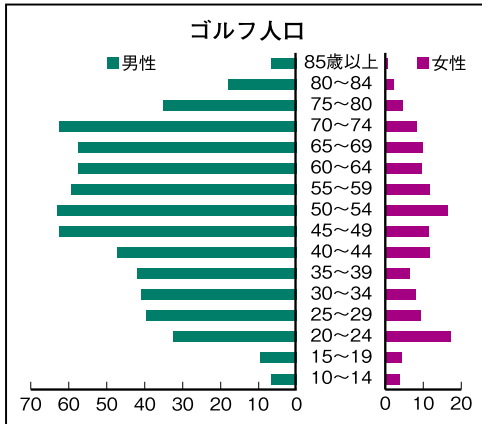


令和3年社会生活基本調査。 コロナ期挟みゴルファー像に変化

ゴルフ人口大幅減の中で、20代前半や女性が増加。 その他アクティブゴルファーの傾向とは



余暇活動等の調査で最大のサンプル数を集計している総務省統計局の「令和3年社会生活基本調査」が、8月31日に発表された。

5年ごとの調査のため総人口が減少を始めた影響やコロナ期を挟んだことから変容が見られた。

バブル崩壊後、約30年間ほぼ一貫してゴルフ人口が減少していたが、コロナ期を挟んでゴルフ練習場、ゴルフ場とも活況を呈した。特に練習場は第4次ゴルフブームともいわれる特需状態にあったため、練習場利用者を含めたゴルフ人口（ゴルフ行動者数）は5年前比較で当然のように増加していることも予想された。

しかし、結果を見ると、5年前比較で若者や女性の一部で増加したものの、全般的には大幅減少したことがわかった。

また、これまでのデータでは見過ごされていた団塊ジュニアがゴルフ人口で存在感を増した。団塊世代の孫世代の30歳前後や海外ではZ世代とも呼ばれる20代前後の若者が、ゴルフ人口減少の環境にあつて、どの程度増えたのか。これらデータも拾ってゴルフ業界の市場動向を探ることにした。

**ゴルフ人口773・8万人で
13・1%減少**

社会生活基本調査は昭和51（1976）年10月以来5年ごとに実施。今回は全国約9万1千世帯における10歳以上の世帯約19万人を対象とし、「調査票A」について回答した約18万人の集計となっている。調査は令和3年10月20日現在で行っている。

調査結果によると、過去1年間にゴルフ（ゴルフ練習場を含む）を行った10歳以上の人数は773・8万人となり、前回調査の平成28（2016）年の890万人（平成23年は924万人）に比べ116・2万人、13・1%の大幅減少となった。平成8（1996）年調査以降連続しての減少で、28年は3・7%減と減少率は狭まっていたが、令和3年は平成13年調査（ゴルフ人口1254・1万人、18・4%減）に次ぐ、減少幅となった。ゴルフ人口は平成3年のピーク時、平成8年と比べてもほぼ半減となっている。

令和3年の年齢別のゴルフ人口では、50〜54歳が79・6万人で最も多く、次いで45〜49歳が73・4

令和3年総務省社会生活基本調査 男女・年齢別ゴルフ行動者率及びゴルフ人口

年齢別	ゴルフ行動者率 (%)									ゴルフ人口 (万人)								
	男女計			男性			女性			男女計			男性			女性		
	28年	3年	率	28年	3年	率	28年	3年	率	28年	3年	率	28年	3年	率	28年	3年	率
10~14	2.4	1.9	-20.8%	2.6	2.4	-7.7%	2.2	1.5	-31.8%	13.2	10.1	-23.2%	7.3	6.6	-10.0%	5.9	3.9	-33.8%
15~19	2.0	2.5	25.0%	2.1	3.4	61.9%	1.8	1.6	-11.1%	11.8	13.9	17.6%	6.6	9.7	46.5%	5.1	4.3	-15.1%
20~24	6.5	8.0	23.1%	9.2	10.3	12.0%	3.7	5.7	54.1%	39.6	49.6	25.4%	28.6	32.6	13.9%	11.0	17.3	57.6%
25~29	9.2	7.7	-16.3%	14.1	12.2	-13.5%	4.1	3.0	-26.8%	58.2	48.8	-16.2%	45.6	39.6	-13.2%	12.6	9.3	-26.4%
30~34	9.1	7.5	-17.6%	15.3	12.3	-19.6%	2.7	2.5	-7.4%	65.3	48.8	-25.2%	55.8	40.9	-26.7%	9.5	8.0	-16.1%
35~39	8.3	6.6	-20.5%	13.9	11.3	-18.7%	2.5	1.8	-28.0%	66.6	48.2	-27.6%	56.5	41.9	-25.8%	10.0	6.5	-35.2%
40~44	8.4	7.2	-14.3%	14.2	11.5	-19.0%	2.4	2.9	20.8%	80.8	58.4	-27.7%	69.2	47.2	-31.7%	11.6	11.6	0.2%
45~49	9.9	7.6	-23.2%	16.1	12.8	-20.5%	3.6	2.4	-33.3%	91.2	73.4	-19.5%	74.8	62.5	-16.5%	16.5	11.5	-30.5%
50~54	10.9	8.7	-20.2%	18.5	13.7	-25.9%	3.2	3.6	12.5%	84.9	79.6	-6.2%	72.5	63.0	-13.2%	12.3	16.4	33.3%
55~59	10.9	9.2	-15.6%	18.0	15.4	-14.4%	3.8	3.0	-21.1%	81.0	71.2	-12.2%	66.8	59.3	-11.2%	14.2	11.6	-18.0%
60~64	9.9	9.2	-7.1%	17.9	16.1	-10.1%	2.3	2.6	13.0%	79.7	66.8	-16.2%	70.2	57.5	-18.0%	9.5	9.6	0.9%
65~69	9.6	8.7	-9.4%	17.4	15.4	-11.5%	2.2	2.5	13.6%	96.4	67.1	-30.4%	84.7	57.4	-32.2%	11.7	10.0	-15.0%
70~74	8.2	7.6	-7.3%	15.5	14.2	-8.4%	1.9	1.7	-10.5%	58.8	71.1	20.9%	51.6	62.4	20.9%	7.2	8.4	17.0%
75~80	6.4	6.2	-3.1%	12.5	12.3	-1.6%	1.4	1.3	-7.1%	39.6	39.7	0.4%	34.7	35.1	1.2%	4.9	4.6	-5.7%
80~84	4.0	4.1	2.5%	8.6	8.5	-1.2%	0.8	0.8	0.0%	18.3	20.4	11.4%	16.3	17.9	10.0%	2.0	2.3	14.6%
85歳以上	1.2	1.5	25.0%	3.2	3.9	21.9%	0.2	0.2	0.0%	4.7	7.3	55.2%	4.2	6.7	59.2%	0.5	0.6	25.9%
75歳以上	4.2	4.1	-2.4%	9.2	8.9	-3.3%	0.9	0.8	-11.1%	62.6	66.6	6.4%	55.2	59.5	7.7%	7.4	7.7	3.4%
合計	7.9	6.9	-12.7%	13.5	11.7	-13.3%	2.5	2.3	-8.0%	890.0	773.8	-13.1%	745.5	641.5	-14.0%	144.5	132.6	-8.3%

総務省統計局 社会生活基本調査より

万人、70〜74歳は71・1万人となり、総人口で上回る団塊ジュニアが親世代の団塊世代をゴルフ人口で上回った。

増加率では7・3万人で55・2%増だった85歳以上、そしてコロナ期に増えたといわれた若者世代の20〜24歳が25・4%増、前記の70〜74歳が20・9%増だった。一方で団塊世代の抜けた40〜44歳は20%の減少、団塊ジュニアの一部抜けた45〜49歳も19・5%減となっている。

世代交代した形だが、これは主に時間の経過とコロナが影響している。5年前に96・4万人で最大のゴルフ人口だった団塊の世代を含む65〜69歳は今回70〜74歳に減少し1万人に減した。25・3万人、率にして26・3%、4人に1人がリタイヤしたものだ。同じく団塊ジュニアを含む50〜54歳はゴルフ人口こそ79・6万人で5歳刻みの世代間トップだが、5年前の45〜49歳は91・2万人いて12・7%減少していた。

実は20〜24歳のゴルフ人口が49・6万人とな

男女・年齢別ゴルフ行動日数及び推定延べ行動日数

年齢別	行動日数									推定延べ行動日数								
	男女計			男性			女性			男女計			男性			女性		
	28年	3年	率	28年	3年	率	28年	3年	率	28年	3年	率	28年	3年	率	28年	3年	率
10~14	15.7	13.7	-12.7%	16.0	13.3	-16.9%	15.4	14.3	-7.1%	207.2	138.9	-33.0%	116.8	87.3	-25.2%	90.9	55.8	-38.6%
15~19	13.6	11.9	-12.5%	8.6	13.0	51.2%	19.4	9.3	-52.1%	160.5	165.1	2.9%	56.8	125.7	121.5%	98.9	40.3	-59.3%
20~24	13.0	20.9	60.8%	12.1	27.3	125.6%	15.1	9.0	-40.4%	514.8	1037.6	101.6%	346.1	889.4	157.0%	166.1	156.1	-6.0%
25~29	11.8	22.3	89.0%	12.5	22.9	83.2%	9.2	19.7	114.1%	686.8	1087.4	58.3%	570.0	906.3	59.0%	115.9	182.6	57.5%
30~34	14.1	19.2	36.2%	14.7	19.8	34.7%	10.3	16.5	60.2%	920.7	937.4	1.8%	820.3	809.5	-1.3%	97.9	131.5	34.4%
35~39	17.0	23.9	40.6%	17.3	24.5	41.6%	15.2	19.9	30.9%	1132.2	1152.4	1.8%	977.5	1026.6	5.0%	152.0	128.9	-15.2%
40~44	20.6	21.6	4.9%	22.2	23.3	5.0%	10.6	14.4	35.8%	1664.5	1261.9	-24.2%	1536.2	1100.5	-28.4%	123.0	167.3	36.1%
45~49	20.2	29.9	48.0%	22.0	30.7	39.5%	12.2	25.7	110.7%	1842.2	2194.2	19.1%	1645.6	1917.6	16.5%	201.3	294.6	46.3%
50~54	30.2	31.7	5.0%	31.1	33.9	9.0%	24.9	23.4	-6.0%	2564.0	2523.8	-1.6%	2254.8	2134.1	-5.4%	306.3	383.8	25.3%
55~59	30.9	39.3	27.2%	30.0	40.2	34.0%	35.4	35.1	-0.8%	2502.9	2796.3	11.7%	2004.0	2385.3	19.0%	502.7	408.7	-18.7%
60~64	37.2	39.6	6.5%	37.8	40.7	7.7%	32.7	32.7	0.0%	2964.8	2644.6	-10.8%	2653.6	2341.9	-11.7%	310.7	313.3	0.9%
65~69	44.6	44.4	-0.4%	45.8	45.2	-1.3%	36.0	40.1	11.4%	4299.4	2978.2	-30.7%	3879.3	2595.7	-33.1%	421.2	399.0	-5.3%
70~74	49.3	49.8	1.0%	51.1	51.6	1.0%	36.2	37.1	2.5%	2898.8	3538.8	22.1%	2636.8	3218.8	22.1%	260.6	312.6	20.0%
75~80	45.6	45.6	0.0%	45.4	46.9	3.3%	47.1	35.2	-25.3%	1805.8	1812.2	0.4%	1575.4	1647.5	4.6%	230.8	162.6	-29.5%
80~84	43.2	40.3	-6.7%	42.8	42.0	-1.9%	46.2	26.3	-43.1%	790.6	821.9	4.0%	697.6	753.3	8.0%	92.4	60.3	-34.8%
85歳以上	51.2	49.6	-3.1%	55.0	52.3	-4.9%	16.6	19.3	16.3%	240.6	361.7	50.3%	231.0	349.6	51.3%	8.3	12.2	46.4%
75歳以上	45.4	44.4	-2.2%	45.4	46.0	1.3%	44.9	31.3	-30.3%	2842.0	2957.4	4.1%	2506.1	2734.8	9.1%	332.3	239.5	-27.9%
合計	28.3	32.9	16.3%	29.5	34.8	18.0%	22.0	23.6	7.3%	25187.0	25458.0	1.1%	21992.3	22324.2	1.5%	3179.0	3128.3	-1.6%

総務省統計局 社会生活基本調査より 推定延べ行動日数はゴルフ人口及び行動日数から算出

り5年前の15〜19歳11・8万人より37・8万人、320・7%もの激増となったが、他に25〜29歳や15〜19歳以外で5年前からの世代移動によりプラスになった世代はなかった。

ゴルフの行動者率は全体で6・9%となり、前回より1・0ポイント、12・7%もダウンした。コロナ禍や世代の移動もあり50歳前後を中心に2割以上減少する世代もあった。一方でゴルフ人口も増えた15〜19歳、20〜24歳、85歳以上は2割以上増加した。

またゴルフをした人の平均行動日数は4・6日増の32・9日となった。増加率は16・3%増であり、例えば平成13（2001）年のゴルフ人口1254・1万人、行動日数23・5日に比べ、9・4日、4割も増加した。20代を筆頭に若い世代で激増したもので、全体の推定延べ行動日数は1・1%増と5年前を上回ることもあった。

若者のライトゴルフアールと高齢のコアゴルフアールに注目

社会生活基本調査は、ゴルフ（練習場含む）で調査しており、今回の参加率6・9%、ゴルフ人口7

73・8万人は、ゴルフ場だけのデータでないことに留意していただきたい。

スポーツ庁の令和3年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」の参加率であるゴルフ（コースでのラウンド）6・2%、ゴルフ（練習場・シミュレーションゴルフ）5・6%や、『レジャー白書2021』（20年調査、公益財団法人日本生産性本部余暇創研）でのゴルフ（コース）5・3%520万人、練習場5・4%530万人）と比較すると、練習場を含むだけに数字が大きくなっている。

ちなみに、スポーツ庁の令和3年度「ゴルフ（練習場・シミュレーションゴルフ）」実施率が5・6%（男性9・2%、女性2・0%）ある中で、ローデータを検証するとコースを利用しなかった人は1・3%、人数にして120万人程度いた計算。これでゴルフ（コースでのラウンド）6・2%（590万人程度）と練習場（533万人程度）を合わせたゴルフ実施（人口）は7・4%、700万人と推計できていた。

つまり、今回の基本調査のゴルフ（練習場含む）参加率6・9%

はスポーツ庁調査より少なく、ゴルフ（コースでのラウンド）のみに限定すると6%まで届かず、700万人を割っている公算が高い。サンプル数や調査年齢の最も広い同基本調査がゴルフ行動者率等のデータが一番高いが、それをもつてもここ5年間ではゴルフ人口がマイナスとなっているものだ。

もっとも、今回は若者のゴルフ行動者率が15〜19歳で2・5%（25・0%増）、20〜24歳で8・0%（23・1%増）と高く、特に20〜24歳は男性10・3%（12・0%増）、女性5・7%（54・1%増）と女性の参加率も高かった。

さらに全体でも高かった平均行動日数は伸び率で見ると25〜29歳が22・3日増、89・0%増、20〜24歳が20・9日増、60・8%増など非常に高く、行動日数で減少したのは75歳以上など高齢者層であった。女性では25〜29歳が19・7日増、114・1%増、45〜49歳が25・7日増、110・7%増が目立ち、日数の最多は40〜49歳の65〜69歳減少が目立ったのは15〜19歳の9・3日52・1%減、80〜84歳の26・3日43・1%減、20〜24歳の9・0日40・4%減など少しバラツ

キがあった。

今回の基本調査では、高齢者層のゴルフ行動者率が主力の70〜74歳で7・6%（前回比7・3%減）、60〜64歳で9・2%（前回比7・1%減）等、若干低くなった一方で、行動日数は70〜74歳49・8日（1・0%増）、60〜64歳39・6日（6・5%増）と堅調だった。

平均行動日数が大きく増えたのは、若者層が圧倒的に増えたことが最大要因だ。ゴルフ練習場が中心と見られ、ゴルフコースの利用回数などは今秋発表のレジャー白書待ちだが、ゴルフ場の利用者数がコロナ期を境に急回復した要因は若者層のアクティブ化と、コロナ期でも落ち込まなかったコアゴルフアールのアクティブ化に支えられたと考えられる。

ゴルフ人口の構成比で見ると、女性のゴルフ人口は、男性の参加者減もあつて、1・2ポイント増の17・4%となり、20%に近づいてきた。

スポーツ庁調査やレジャー白書では対象としていない80歳以上は、行動者率こそ落ちたものの人口の増加もあり24・6万人で前回より2割も増加した。しかも行動日数

は85歳以上が49・6日で、70〜74歳の49・8日に次ぐ回数となっており、健康状態の良い方は行動日数もさらに多かった。

今回の基本調査のスポーツ種目のうち、5年前より参加人口が増加したのはウォーキング・軽い体操6・5%増とサイクリング3・6%増だけ。ただし、行動者率が軒並み落ちている中で、ジョギングが104・6日でほぼ倍増するなどコロナ禍で行動日数が増えた

総務省社会生活基本調査 生活行動一スポーツ

令和3年	参加人口(万人)		行動者率		行動者日数	
	3年	前回は	3年	前回は	3年	前回は
00_総数	7,478.5	-4.1%	66.5	-3.3%		
01_野球(キャッチボールを含む)	705.1	-13.4%	6.3	-12.5%	34.1	-2.0%
02_ソフトボール	166.7	-44.7%	1.5	-44.4%	28.8	25.2%
03_バレーボール	390.6	-23.9%	3.5	-22.2%	42.5	4.4%
04_バスケットボール	405.1	-16.7%	3.6	-16.3%	45.2	-5.2%
05_サッカー(フットサルを含む)	533.9	-21.1%	4.7	-21.7%	41.5	-7.4%
06_卓球	546.5	-28.7%	4.9	-27.9%	26.7	10.3%
07_テニス	381.4	-32.2%	3.4	-32.0%	56.5	8.2%
08_パドミントン	684.2	-9.5%	6.1	-9.0%	19.8	-2.9%
09_ゴルフ(練習場を含む)	773.8	-13.1%	6.9	-12.7%	32.9	16.3%
10_グラウンドゴルフ	193.7		1.7		45.5	
11_柔道	41.5	-34.2%	0.4	-33.3%	48.2	-5.3%
12_剣道	55.1	-17.0%	0.5	-14.3%	86.2	79.2%
13_ボウリング	570.3	-60.2%	5.1	-59.8%	7.9	38.6%
14_つり	872.8	-11.1%	7.8	-10.3%	13.9	14.9%
15_水泳	638.2	-48.7%	5.7	-48.2%	32.0	29.0%
16_スキー・スノーボード	365.4	-40.0%	3.2	-40.7%	7.5	19.0%
17_登山・ハイキング	861.4	-24.1%	7.7	-23.0%	8.2	12.3%
18_サイクリング	925.7	3.6%	8.2	3.8%	38.0	2.7%
19_ジョギング・マラソン	1,247.0	-8.8%	11.1	-8.3%	55.0	2.2%
20_ウォーキング・軽い体操	4,987.3	6.5%	44.3	7.3%	104.6	6.0%
21_ヨガ	622.2		5.5		55.3	
22_器具を使ったトレーニング	1,452.9	-12.9%	12.9	-12.2%	83.2	15.7%
23_その他	513.2	-28.5%				

(調査票A) 生活行動一スポーツの調査。前回は5年前の平成28年との比較

種目があり、行動様式が変容した影響が大きい。意外にも参加人口が減った運動が比較的活動回数が多かった。社会人もテレワークなどで趣味の時間が増えた人が多いだけに、ゴルフ(練習場含む)も行動者日数が16・3%増加する結果になった。

前回調査にあったゲートボールは今回グラウンドゴルフ(行動者率1・7%、人口193・7万人)に種目が変わり、平均行動者日数

も45・5日と、通常のゴルフ(練習場含む)を上回った。同じようにヨガも55・3日と多い。

これらに比べてゴルフ(練習場含む)の行動回数が少ないのは、費用面と居住地から離れていることが多いためだ。逆に居住地からゴルフ場が近く、時間や費用面で余裕のできる高齢者は行動日数も多くなっている。いま、大都市部で増えているインドアゴルフ施設の出現で、今後行動者率、行動日数が増えるの注目のポイントだ。

都道府県別ゴルフ行動者率、愛知9%、兵庫8・8%

ここで、「ゴルフ(ゴルフ練習場を含む)」の都道府県別集計を見てみよう。都道府県別のゴルフ行動者率は、愛知県が9・0%(平成28年と同)でトップ。以下、兵庫県8・8%(9・7%)、奈良県8・5%(8・6%)、大阪府8・4%(7・6%)と宮崎県8・4%(7・7%)が同率で並んだ。5年前に10・1%で同率トップだった茨城県は8・1%に低下、同じく千葉県は7・4%に低下した。

増加率でマイナスとならなかったのは4位タイに浮上した大阪府の10・5%増、同じく4位タイに浮上した宮崎県8・7%増、福島県3・1%増、5年前と同率の愛知県と京都府の5府県のみだった。比較的西日本の落ち込み度が少なかった。

ゴルフ人口では、前年比19・5%減と大きく減少しつつ東京都が93・9万人で前回に続きトップとなった。以下、大阪府66・3万人(9・6%増)、神奈川県60・4万人(9・4%減)と愛知県60・4万人(0・3%増)は同数で続いた。少ない順では、鳥取県2・1万人(25・0%減)、島根県2・7万人(10・0%減)、徳島県2・8万人(31・7%減)と中四国が目立った。

ゴルフ行動者率やゴルフ人口が減りつつも、ゴルフ場の来場者数が増えている要因は、これまで報告してきた通り、近場の利用が中心となり、行動日数(プレー回数)が増加した人が多かったためだ。つまり、コアゴルファーが増加すれば、ライトゴルファーが減ってもゴルフ場来場者数は確保できる。ただ、コロナ禍の生活様式も変わ

個人の年間収入・収益別ゴルフ（練習場含む）

	行動者数（万人）			行動者率			平均行動日数		
	28年	3年	率	28年	3年	率	28年	3年	率
総数	711.5	621.2	-12.7%	10.6	9.1	-14.2%	25.0	30.3	21.2%
収入なし	4.1	4.1	0.0%	4.1	4.7	14.6%	27.1	26.4	-2.6%
50万円未満	20.1	19.6	-2.5%	4.2	4.5	7.1%	23.0	25.7	11.7%
50～99万円	33.4	31.8	-4.8%	4.2	4.4	4.8%	26.9	27.0	0.4%
100～149万円	30.7	27.2	-11.4%	4.2	4.0	-4.8%	31.9	31.0	-2.8%
150～199万円	27.7	19.6	-29.2%	5.6	4.5	-19.6%	29.5	31.1	5.4%
200～249万円	40.6	32.8	-19.2%	6.3	5.1	-19.0%	22.7	30.7	35.2%
250～299万円	39.7	40.3	1.5%	8.2	7.7	-6.1%	28.6	23.4	-18.2%
300～399万円	87.9	70.7	-19.6%	10.1	7.6	-24.8%	23.1	27.5	19.0%
400～499万円	84.3	77.9	-7.6%	13.4	10.7	-20.1%	20.9	31.8	52.2%
500～599万円	79.2	62.5	-21.1%	18.2	12.8	-29.7%	21.0	23.9	13.8%
600～699万円	61.1	56.0	-8.3%	18.9	16.4	-13.2%	22.1	27.9	26.2%
700～799万円	50.9	39.2	-23.0%	21.8	16.4	-24.8%	23.3	29.1	24.9%
800～899万円	32.3	32.9	1.9%	23.5	20.3	-13.6%	28.6	27.8	-2.8%
900～999万円	30.4	23.0	-24.3%	34.2	20.7	-39.5%	25.7	36.2	40.9%
1000～1499万円	57.4	54.9	-4.4%	38.6	30.9	-19.9%	25.3	42.2	66.8%
1500万円以上	24.9	24.6	-1.2%	43.5	34.7	-20.2%	44.1	46.3	5.0%

台、5000万円台が中心で、次に10000～1499万円となる。行動者率はほぼ収入が多くなるほど高く、10000万円以上の行動者率は3割を超えた。平均行動日数は10000万円以上が40回以上と多くなる以外は、収入差による行動日数の違いは少なかった。

従業上の地位、従業者規模別ゴルフ（練習場含む）

	行動者数（万人）			行動者率			平均行動日数		
	28年	3年	率	28年	3年	率	28年	3年	率
総数	711.5	621.2	-12.7%	10.6	9.1	-14.2%	25.0	30.3	21.2%
雇用されている人	543.3	475.1	-12.6%	9.8	8.3	-15.3%	22.5	27.0	20.0%
1～4人	17.1	15.4	-9.9%	6.8	6.5	-4.4%	41.9	28.4	-32.2%
5～9人	25.0	20.1	-19.6%	6.7	5.7	-14.9%	23.0	33.4	45.2%
10～29人	47.2	40.4	-14.4%	6.4	5.6	-12.5%	25.0	31.2	24.8%
30～99人	67.7	57.4	-15.2%	8.0	6.6	-17.5%	22.1	30.5	38.0%
100～299人	77.4	64.1	-17.2%	9.7	7.8	-19.6%	23.9	25.3	5.9%
300～999人	78.5	70.9	-9.7%	11.0	9.5	-13.6%	20.9	20.6	-1.4%
1000人以上	182.3	165.7	-9.1%	13.9	10.9	-21.6%	20.0	27.4	37.0%
1000～4999人	92.6	76.6	-17.3%	14.3	10.5	-26.6%	19.7	30.4	54.3%
5000人以上	89.7	89.1	-0.7%	13.5	11.2	-17.0%	20.2	24.7	22.3%
官公など	43.8	34.5	-21.2%	10.1	8.7	-13.9%	23.1	28.9	25.1%
会社などの役員	84.3	76.0	-9.8%	28.8	26.2	-9.0%	37.7	44.2	17.2%
うち1～4人	20.4	19.6	-3.9%	18.9	17.2	-9.0%	39.8	41.1	3.3%
うち5～9人	13.1	11.6	-11.5%	23.5	22.9	-2.6%	30.2	48.0	58.9%
うち10～29人	20.7	14.6	-29.5%	34.5	27.6	-20.0%	43.5	45.9	5.5%
うち30～299人	20.1	20.7	3.0%	40.6	39.1	-3.7%	36.7	46.1	25.6%
うち300人以上	9.3	9.0	-3.2%	54.6	52.4	-4.0%	34.3	38.1	11.1%
雇人のある業主	30.0	24.7	-17.7%	17.3	16.0	-7.5%	32.0	47.8	49.4%
1～4人	18.9	16.2	-14.3%	15.7	15.4	-1.9%	29.6	56.8	91.9%
5～9人	6.7	4.2	-37.3%	22.0	16.2	-26.4%	37.6	31.4	-16.5%
10～29人	3.4	2.1	-38.2%	24.3	18.7	-23.0%	29.4	33.6	14.3%
30人以上	0.9	1.5	66.7%	16.0	19.0	18.8%	51.1	30.6	-40.1%
雇人のない業主	38.8	34.3	-11.6%	9.5	8.6	-9.5%	28.5	30.6	7.4%
自家営業の手伝い（家族従業者）	12.9	9.8	-24.0%	5.4	4.8	-11.1%	24.6	32.1	30.5%
家庭内の賃仕事（内職）	0.7	0.6	-14.3%	2.8	3.5	25.0%	26.5	8.1	-69.4%

総務省統計局 社会生活基本調査（令和3年及び平成28年）より

従業上の地位、従業者規模別では、雇用されている場合は1000人以上の大企業に行動者数が多く、会社などの役員では人数が多い規模ほど行動率が高い。そして行動日数ではほぼ個人事業主と言える「雇人のある業主」で多くなっている。

高所得者層ほどゴルフ熱が高い傾向に変わりがなく、若者や独身など制約の少ない層がゴルフ市場をけん引した。収入差による行動日数にあまり差異がなかったのもゴルフが高所得者だけが楽しめるスポーツでないことの証だろう。5年振りの社会生活基本調査も

ニアや増加余地のある女性の定着拡大を促し、かつゴルフ熱や健康志向が高まりつつもゴルフ参加率が減っている高齢者等向けのリターン、リピート促進やリタイヤ防止策などが考えられる。それぞれの立場で効果的に対策に取り組みたいところだ。

ゴルフ人口の減少が判明した。コロナ期でゴルフ人口が急拡大したZ世代（25歳以下）とされるデジタル世代を益々育成・拡大させる一方、今後高齢者人口が増えてゴルフアー予備軍もしばらく期待できることから、人口最大となった団塊ジュ

ライブステージ別ゴルフ（練習場含む）

	行動者数（万人）			行動者率			平均行動日数		
	28年	3年	率	28年	3年	率	28年	3年	率
総数	890.0	773.8	-13.1%	7.9	6.9	-12.7%	28.3	32.9	16.3%
1_教育を受けている時期	39.0	37.4	-4.1%	2.9	3.0	3.4%	14.5	13.0	-10.3%
小学生	8.4	5.6	-33.3%	3.2	2.2	-31.3%	11.3	12.6	11.5%
中学生	5.2	5.3	1.9%	1.5	1.6	6.7%	19.9	13.6	-31.7%
高校生	6.6	5.2	-21.2%	1.7	1.6	-5.9%	8.5	10.0	17.6%
その他の在学者	18.8	21.3	13.3%	5.4	6.2	14.8%	16.3	13.7	-16.0%
2_独身期	189.8	183.7	-3.2%	6.6	5.9	-10.6%	22.7	29.7	30.8%
35歳未満	83.0	80.9	-2.5%	7.8	7.3	-6.4%	13.0	24.3	86.9%
35～44歳	28.3	20.3	-28.3%	6.0	4.3	-28.3%	24.1	28.4	17.8%
45～64歳	56.2	53.7	-4.4%	8.3	6.6	-20.5%	29.1	32.5	11.7%
65歳以上	22.3	28.7	28.7%	3.4	3.9	14.7%	40.7	40.6	-0.2%
3_子供のいない夫・妻	257.2	228.2	-11.3%	10.4	9.0	-13.5%	40.0	41.4	3.5%
35歳未満	17.6	18.5	5.1%	10.8	11.6	7.4%	13.4	19.5	45.5%
35～44歳	18.4	11.8	-35.9%	11.4	9.3	-18.4%	25.8	20.5	-20.5%
45～64歳	87.5	82.8	-5.4%	10.7	10.0	-6.5%	34.3	37.3	8.7%
65歳以上	133.7	115.2	-13.8%	10.1	8.1	-19.8%	49.2	50.0	1.6%
4_子育て期の夫・妻	236.1	174.0	-26.3%	10.5	8.7	-17.1%	18.3	25.0	36.6%
末子が就学前	94.9	64.7	-31.8%	9.6	8.1	-15.6%	15.2	19.9	30.9%
末子が小学生	67.8	50.0	-26.3%	11.3	8.9	-21.2%	15.6	22.7	45.5%
末子が中学生	28.6	22.8	-20.3%	10.5	8.7	-17.1%	24.7	30.4	23.1%
末子が高校生	29.2	23.0	-21.2%	12.2	10.0	-18.0%	21.9	32.6	48.9%
末子 その他	15.6	13.5	-13.5%	10.4	9.2	-11.5%	30.6	35.5	16.0%
5_子育て期のひとり親	5.5	7.0	27.3%	3.0	4.4	46.7%	18.1	21.0	16.0%
末子が就学前	0.6	2.0	233.3%	1.6	6.0	275.0%	15.2	9.4	-38.2%
末子 その他	4.9	5.0	2.0%	3.3	4.0	21.2%	18.5	25.8	39.5%
6_子供（無業の30歳未満の子供以外）と同居の夫・妻	115.0	82.9	-27.9%	8.8	7.0	-20.5%	35.0	37.7	7.7%
7_子供（無業の30歳未満の子供以外）と同居のひとり親	11.4	10.7	-6.1%	2.1	2.1	0.0%	36.5	33.8	-7.4%

総務省統計局 社会生活基本調査（令和3年及び平成28年）より

ドライビングレンジ用品

Driving range Supplies

30ミリの人工芝でクッション性抜群

プラ擬木丸太 打席仕切り φ120x2000

高品質人工芝 ショットマット 500x1200

高品質人工芝 スタンスマット 1200x1200

※マットはご希望のサイズで制作可能です

オールステンレス製 オリジナル クラブスタンド

天板がフラットなのでちよっとしたものが置けます

クラブヘッドに優しい毛足の長い人工芝

重量 8.5kg 抜群の安定感
強風の翌日に転がっている事はありません

創業 昭和41年 ゴルフ場サインメーカー

—資料請求先—

ヤマグチ工芸 〒241-0823 神奈川県横浜市旭区善部町90-5
<http://www.yamaguchi-kg.com>

TEL 045-391-3667
FAX 045-391-3677